

高齢者スポーツ実施率 向上で皆が幸せに

江戸川大学小林至ゼミ

花島健也

芳賀悟

木村明希人

高齢者スポーツの必要性

なぜ高齢者スポーツの実施率の向上が必要なのか

それは・・・

日本の高齢化の現状

*現在の日本は世界一の超高齢社会

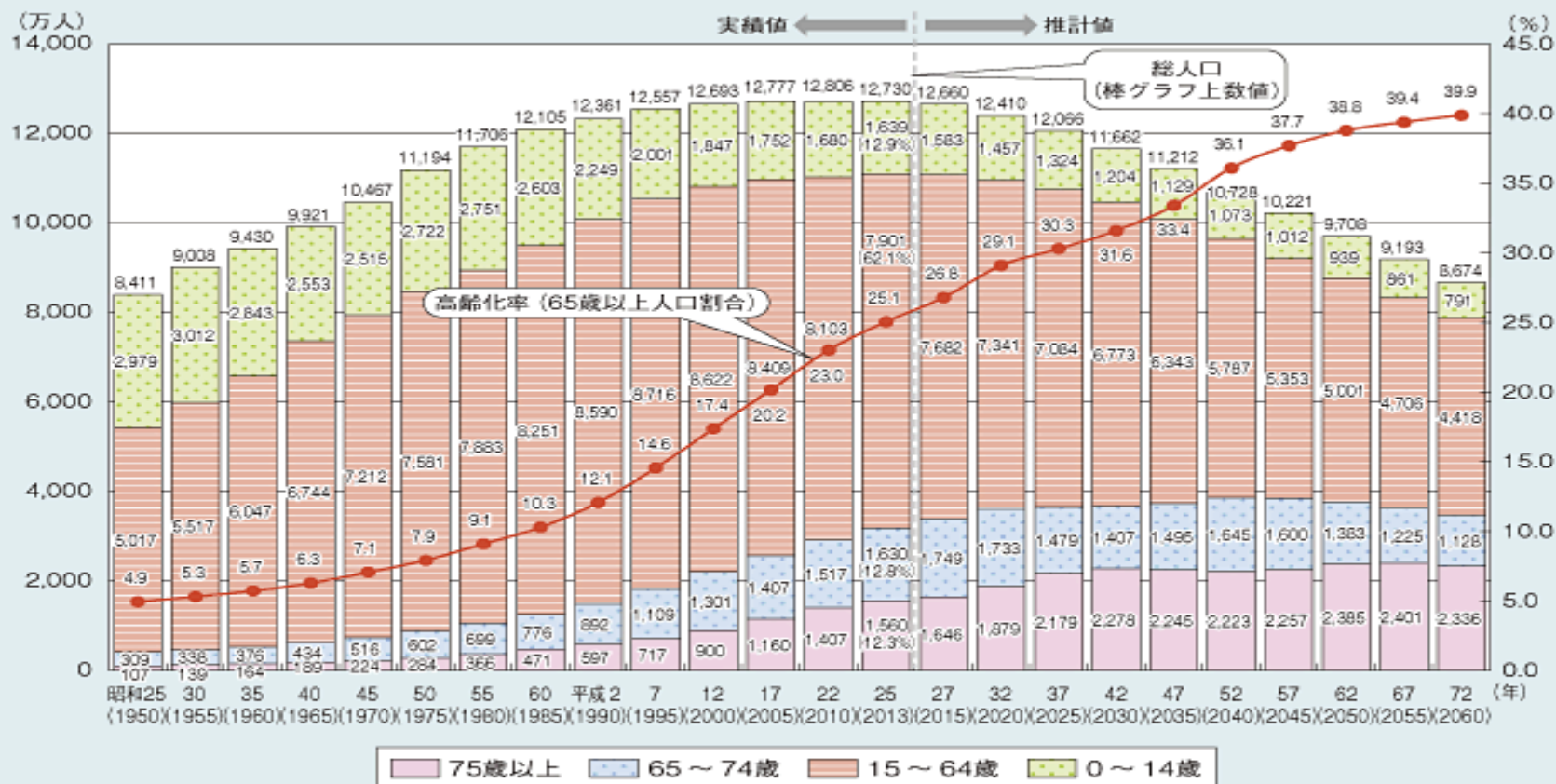
世界高齢化率ランキング(2014年版)

<u>1位</u>	<u>日本</u>	25.78%
2位	イタリア	21.45%
3位	ドイツ	21.25%
4位	ギリシャ	19.95%
5位	フィンランド	19.74%

日本の人口比率は、実に4人に1人以上が65歳以上の高齢者となっている。

内閣府統計

図1-1-2 高齢化の推移と将来推計



資料：2010年までは総務省「国勢調査」、2013年は総務省「人口推計」（平成25年10月1日現在）、2015年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成24年1月推計)」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果
 (注) 1950年～2010年の総数は年齢不詳を含む。高齢化率の算出には分母から年齢不詳を除いている。

日本の高齢化の現状

世界平均寿命ランキング (WHO 2015版)

1位 日本 84歳 (男80歳、女87歳)

2位 アンドラ 83歳 (男79歳、女86歳)

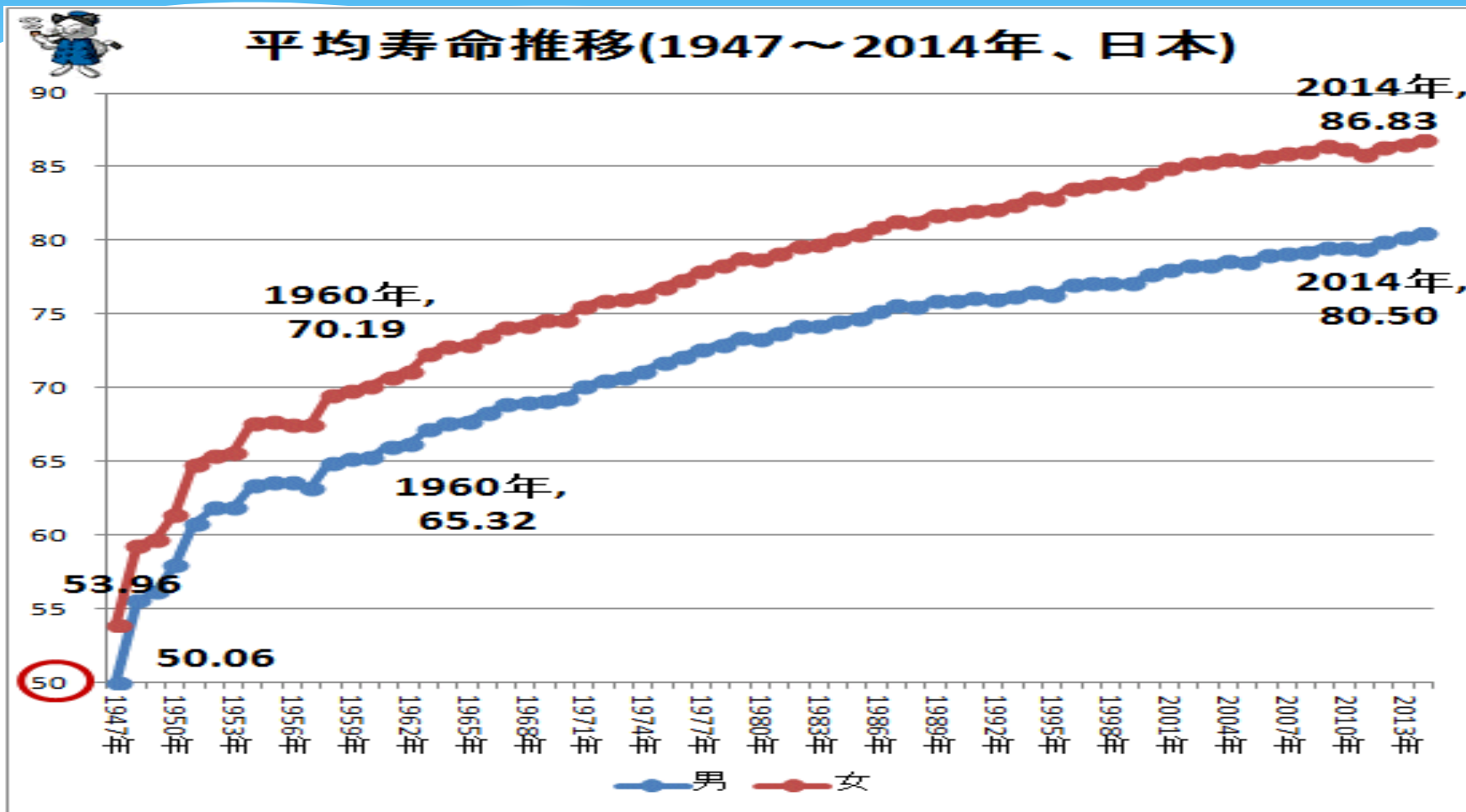
同 イタリア 83歳 (男80歳、女85歳)

同 オーストリア 83歳 (男80歳、女85歳)

同 サンマリノ 83歳 (男83歳、女84歳)

他、スペイン、シンガポール、スイスも同じく83歳で2位

日本の平均寿命 推移



課題1 国民医療費の負担

上記のランキングでは、日本はどちらも首位の座を守っている。素晴らしい事ではあるが...

国民医療費

昭和30年 2,338億円

平成27年 **40兆610億円**

60年間でなんと約200倍に増大

課題1 国民医療費の負担

そして、この膨大な国民医療費を負担しているのは誰か？

それは、**我々国民**である。

さらに、現在の日本では少子化も進行している。つまりは負担する人の数も減少しているということ。このままでは、我々国民一人当たりの負担額が増加し続けることは目に見えている。

課題2 高齢者の孤独化

- * 日本の家族構成の変化によって生じてきた問題。現在の日本では、かつての二世帯暮らしから、核家族化が進行している。
- * 高齢者の独り暮らしが増えている。
 - 高齢者の孤独死の増加に拍車がかかる
 - 近所付き合いが希薄な日本人の特性を考えるとさらに深刻な問題

高齢者がスポーツをする意義

これらの課題の有効な解決策として、

**スポーツが果たす役割
は重要なものになる！**

高齢者がスポーツをする意義

- * スポーツが健康に良いのは言うまでもない。
→健康な高齢者が増えれば、国民医療費の消費を抑制できる。単に寿命が延びるのではなく、「**健康寿命**」を延ばすことが大切である。
- * スポーツは、コミュニティの形成を助長する。
→スポーツクラブへの加入は、地域にコミュニティを形成し、高齢者の孤独化を防ぐ。

高齢者スポーツ実施率向上に向けて

* 実地調査¹ 広尾パドルテニスクラブ

パドルテニスとは・・・

主に室内で行われる硬式テニス同様のラケット競技。テニスの半分ほどの大きさのコートで、「パドル」と呼ばれる板状の面のラケットでラリーゲームが行われる。また、使用されるボールも通常のテニスよりも柔らかいものとなっている。その手軽さから、子供からお年寄りまで気軽に楽しめる競技となっている。



高齢者スポーツ実施率向上に向けて

広尾パドルテニスクラブは、中野区の体育館や近隣の小学校の体育館などを貸し出してもらい、活動しているクラブである。

- ・週1回 2～3時間程度
- ・40歳から98歳までの幅広い年齢層のメンバーが約50人
- ・年間約6回程の大会に出場し、小学生からの若年層との交流も盛ん

高齢者スポーツ実施率向上に向けて

広尾パドルテニスクラブにおける実地調査で、
現場の方々からは、

「楽しく運動が出来ている」

「様々な年齢層の人達との貴重なふれあいの
場になっている」

といった声が聴かれた。

その一方で、

高齢者スポーツ実施率向上に向けて

「活動できる場所や時間が、かなり限られている」

「場所の確保に苦勞する」

といった切実な声も聞こえてきた。

もっと場所があれば、こうした不満も無くなるはず

高齢者スポーツ実施率向上に向けて

* 実地調査² 西蒲田グラウンド・ゴルフ倶楽部

※グラウンド・ゴルフとは・・・

グラウンド・ゴルフは、専用のクラブとボールを使用し、「ホールポスト」と呼ばれる籠のようなポストにボールを入れる競技。

競技の発祥は日本。昭和57年、鳥取県東泊村における高齢者の急増に伴い、生涯スポーツ活動推進事業の一環として東泊村教育委員会によって考案された競技。



クラブ



スタートマット



ボール



ホールポスト



高齢者スポーツ実施率向上に向けて

西蒲田グラウンド・ゴルフ倶楽部は、会員の健康維持・促進と近隣住民との交流の活性化を目的に活動している。

- ・会員数は約50人(毎回30人程度の活動)
- ・廃校になった近隣のグラウンドを借りて、週1回ほどの活動
- ・小学校の夏季休業期間には、サマースクールを対象に、ボランティア活動も実施

高齢者スポーツ実施率向上に向けて

西蒲田グラウンド・ゴルフ倶楽部での実地調査において、現場の方々からは、

「健康面でプラスに働いている」

「元々引きこもっていた方々の貴重な居場所になっている(特に男性)」

といった声が聞こえた

その一方で、

高齢者スポーツ実施率向上に向けて

「実施できる場所の数に限りがある」

「雨天の際の場所の確保は特に苦勞する」

といった不満の声も多く聞かれた。通常は週に1度は集まって活動を実施しているが、実施場所を確保できなければ、当然ながら週に1度の貴重な機会を得ることはできない。

高齢者スポーツ実施率向上に向けて

今回の広尾パドルテニスクラブ、西蒲田グラウンド・ゴルフ倶楽部における実地調査で見えてきた共通の課題。それは、

「スポーツ施設が足りない」

ということ。高齢者の方々の健康に対する意識の高さ、スポーツをすることへの関心の高さが見て取れた。しかし、施設の不足がそれに歯止めをかけてしまっている。あまりにもつたいない。

提言内容

高齢者の健康増進と、スポーツ施設の不足という課題を受けて、我々が提言したいのは、既存の建物を利用して

「総合型地域スポーツクラブをつくる」

というものだ。

現在の日本の土地利用の実態

- 相次ぐ廃校、空き家問題

スポーツ施設が足りない⇔建物が余っている

→これらを活用するメリット

- コスト削減

既存の建物を再利用→建設費不要

必要に応じた改築のみで充分

ミスマッチ

スポーツ施設が足りない

→ 利用者数 > 施設数

廃校・空き家の増加

→ 利用者数 < 建物数

需要と供給にミスマッチが生じている。

施設が足りずに困っている人と、余ってしまった建物。

→この両者をマッチングさせてはどうか。

廃校の実情（東京都）

小学校	H7	1,465校	→	H27	1,351校	(-114校)
中学校	〃	856校	→	〃	621校	(-235校)
高校	〃	466校	→	〃	442校	(-24校)

少子化→20年間で小・中・高校合わせて**373校**が
廃校に

未利用の場所も多く、まだまだ開拓の余地大

廃校活用

廃校は宝の山！！

学校は最も充実したスポーツ施設

体育館

広いグラウンド

屋外プール

それだけではない。棟内には教室として使用された
部屋が多数

スペースは大小様々→用途に応じて使い分け

空き家の実情

現在の日本は「**空き家大国**」

東京都内だけで約15万戸の空き家がある

空き家の問題点

周辺住民の生活環境への悪影響

- ・物理的な危険(倒壊、破損等)
- ・犯罪の横行(空き巣、放火)

空き家活用

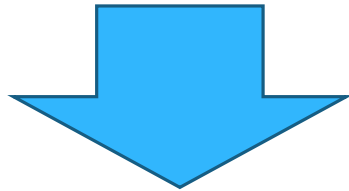
スポーツの力で、危険地帯から娯楽の空間へ

空き家の活用によるメリット

- ・改築による、倒壊などの物理的危険性の減少が期待される。
- ・地域の方々が集う場になれば、自ずと空き巣などの犯罪の抑制にも繋がる。

空き家活用において障害も・・・

- 個人の所有物としての空き家
 他人が勝手に拝借できない
- 税制上の問題
 土地所有による固定資産税
 更地の状態→建物有の状態の6倍
 地主も壊すに壊せない・・・



その対応策として、「**空き家対策特別措置法**」が施行された。

空き家対策特別措置法とは

空き家対策特別措置法とは、適切な管理が行われていない空き家による、近隣住民の生活環境の悪化を防止するための対応、ならびに空き家活用のための対応を目指した措置。行政代執行による空き家の撤去またそれに準ずる行為を行いやすくする特別措置法。

平成27年2月27日 一部施行

” 5月26日 完全施行

まとめ

高齢化によって生じる諸問題の解決にはスポーツの力が重要

→そのことを理解している高齢者の方々は多い

廃校や空き家の有効活用により、これらを新たな

「総合型地域スポーツクラブ」

に生まれ変わらせる



ご清聴ありがとうございました